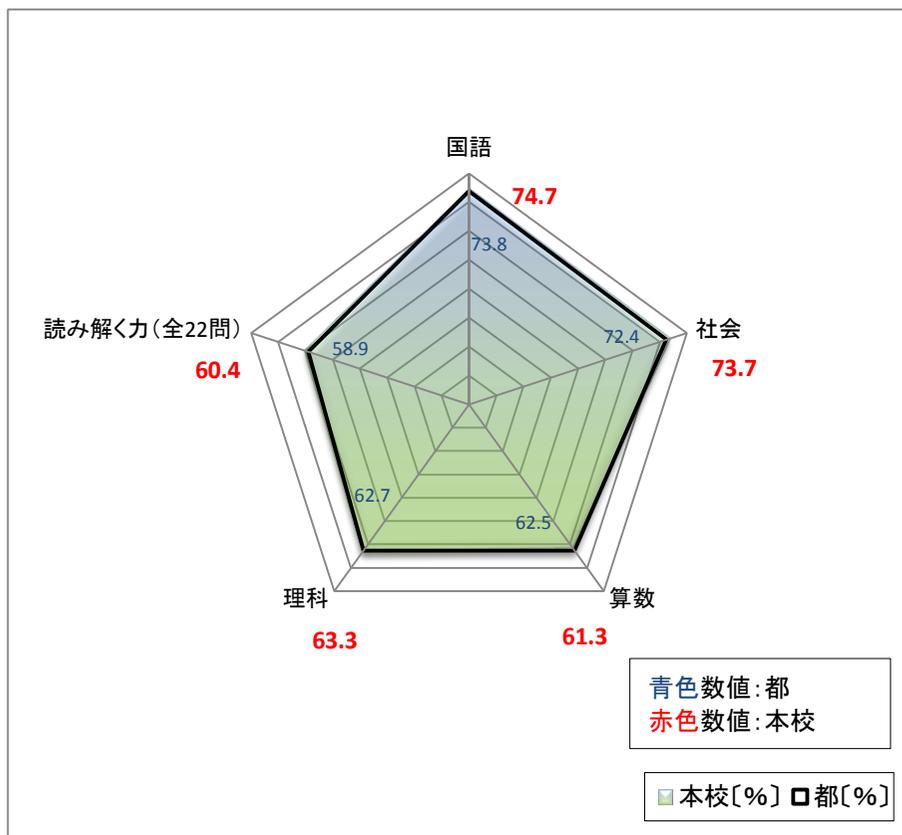


# 平成28年度児童・生徒の学力向上を図るための調査結果による「確かな学力向上推進プラン」策定のための課題分析表

清新ふたば小学校

《学力調査結果チャート》※本校と都の平均正答率の比較



## 《チャートの特徴》

- ・東京都と本校の平均正答率のチャート特徴は酷似している。
- ・全体的な傾向として、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力はある。しかし、比較・関連付けて読み解く力を必要とする問題の中で、資料から問題を取り出したり、読み取ったりする力に課題がある。
- ・社会では上位層と下位層の二極化傾向がみられる。

## 《現状把握》

- ・国語の全体の正答率は、都の平均をやや上回っている。「関心・意欲・態度」が都を約3ポイント上回っているが、「話す・聞く」「書く」「言語」「読む」ではいずれも下回っている。
- ・社会の全体の正答率は、都の平均をやや上回っている。「思考・判断・表現」は約3ポイント、「知識・理解」は約7ポイント上回っているが、「関心・意欲・態度」は約5ポイント、「技能」は約6ポイント都より下回っている。
- ・算数の全体の正答率は、都の平均を1.6ポイント下回っている。「思考・判断・表現」は約6ポイント上回ったものの、「関心・意欲・態度」「技能」「知識・理解」はいずれも下回っている。
- ・理科の全体の正答率は、都の平均をやや上回っている。「関心・意欲・態度」「技能」は、都の平均を上回った。単元によって知識の定着に差が見られた。
- ・全体としては、基本的な知識を身に付けている。しかし、身に付けたことを活用するまでは至っていない。「読み解く力に関する内容」の中では、「解決する力」は高いが、「問題を取り出したり、読み取ったりする力」に課題がある。

## 《授業改善のポイント》(推進プランは別紙)

- ・東京ベーシックドリル、江戸川区チャレンジ問題を活用しながら、学年に捉われず、苦手な部分を繰り返し練習することで基礎的・基本的な定着を図る。
- ・算数では、少人数指導で子どもたちの実態に合った「分かる授業」を実現する。式・図・表・グラフなどを使って自分の考えを表現させたり、説明させたりすることで思考力を高める。
- ・ICTを効果的に活用することで、子どもたちの学習意欲を高めたり、内容に対する理解を広げたりする。
- ・「問題を取り出したり、読み取ったりする力」を高めるために、課題や資料の特徴を明確にする。また、じっくりと資料と向き合う時間も確保する。情報の整理・取捨選択をしながら、表現する活動を計画的に取り入れる。
- ・ペアやグループでの話し合い活動を充実させ、相手や目的、場面や状況を考える活動を深める。学び合いを通して、子どもたち一人一人の多面的なものごとをとらえたり、表現したりする力を高める。
- ・読書科の授業や昼読書を通して、自分で疑問をもって、調べたり考えたりする活動を行い、学び方を学ぶことで汎用的な能力の育成を図る。

## 《家庭・地域への働きかけ》

- ・学校の授業内容について学年便りやホームページ等を通じて発信し、保護者の理解や協力を図る。また、家庭学習の意義を繰り返し伝えることで、家庭学習の習慣化を図る。
- ・「江戸川つ子、家庭ルール」「早寝・早起き、朝ごはん」の徹底を依頼する。また、文房具やノートなどの学習用具の点検も併せてお願いする。